

養殖衛生管理体制整備事業

神崎 博幸・牟田 圭司・梅田 智樹

近年、漁業生産物に占める養殖魚介類の割合は非常に大きくなっており、また、生産される魚種も多岐にわたり、養殖業の重要性が益々高くなっている。

このような中で、養殖漁場環境の維持、魚病の発生防止と被害の軽減、養殖生産物の食品衛生上の安全確保等は以前にも増して重要なものとなっている。これらの課題に対処し、健全な養殖業の発展を図るため、養殖衛生管理体制整備事業を実施した。

内容および結果

1. 総合推進対策

1) 全国会議（全国養殖衛生管理推進会議）

開催時期	参加方法	主な内容
3月13日	WEB	1. 水産防疫の実施状況等 2. 水産防疫対策事業の成果概要 3. 養殖魚の迅速な診断体制に向けた対応

2) 地域検討会（九州・山口ブロック魚病分科会）

開催時期	開催場所	主な内容
11月15、16日	佐賀県 佐賀市	各県の魚病発生状況等

3) 県内会議（佐賀県養殖衛生対策会議）

開催時期	開催場所	主な内容
3月27日	佐賀県 唐津市	・玄海地区における令和4年度魚病発生状況、出荷前検査及びワクチン接種前検査等 ・令和3年魚病被害・水産用医薬品アンケート調査結果 ・令和4年度養殖日誌記帳調査結果 ・各地区における漁場改善計画の取組状況 ・令和4年度養殖衛生管理講習会について ・令和4年度玄海地区の海況（赤潮・貧酸素、貝毒）

2. 養殖衛生管理指導

1) 医薬品の適正使用の指導

実施時期	実施場所	主な内容
4月～3月	佐賀県 玄海地区	・水産用医薬品の適正使用について

2) 適正な養殖指導管理・ワクチン使用の指導

実施時期	実施場所	主な内容
4月～3月	佐賀県 玄海地区	・養殖管理、漁場環境の維持及び水産用ワクチンの使用について
1月～3月	佐賀県 玄海地区	・養殖日誌記帳調査（上期・下期分収集）

※ ワクチン使用の指導実績（付表1のとおり）

3) 養殖衛生管理技術の普及・啓発

(1) 養殖衛生管理技術講習

実施時期	実施場所	主な内容
2月15日	佐賀県 唐津市	「玄海地区の魚類等養殖における魚病発生の変遷と対策」 「水産用医薬品の適正利用について」等 佐賀県玄海水産振興センター 神崎 博幸

3. 養殖場の調査・監視

1) 養殖資材の使用状況調査

実施時期	対象資材	主な内容
5月～6月	水産用医薬品 その他の薬剤	養殖業者へのアンケート調査

2) 医薬品残留検査

検査の結果、残留基準値未満であった。

調査時期	検査方法	対象医薬品	対象魚種	検体数
12月26日 ～27日	液体クロマトグラフ 質量分析法	オキシテトラサイクリン	ブリ	1
			ヒラマサ	1
			トラフグ	1
	微生物学的検査法	エリスロマイシン	ブリ ヒラマサ	1 1

注) 残留検査の検体数は、同一個体から採取した場合でも、分析した医薬品の種類や部位が異なる場合、別の検体として数えた。

3) 薬剤耐性菌の実態調査

実施時期	対象魚種	主な内容
4月～3月	マサバ、シマアジ	病魚から分離した病原細菌を用いたディスク試験

4. 養殖衛生管理機器整備

実績なし

5. 疾病対策

1) 疾病監視対策

実施時期	対象魚種	主な内容
4月～3月	ブリ、マダイ、 マサバ、トラフグ 他	養殖漁場における疾病監視、 防疫対策指導

2) 疾病発生対策

実施時期	対象魚種	主な内容
4月～3月	ブリ、マダイ、 マサバ、トラフグ 他	疾病検査・診断、疾病の被害と 伝播の防止

3) 仮屋湾養殖マダイ及びトラフグの白点虫寄生状況モニタリング調査

平成22年度に佐賀県東松浦郡玄海町の仮屋漁業協同組合の魚類養殖漁場において、白点虫により養殖マダイが大量斃死したことから、平成23年度以降継続して、白点虫寄生状況モニタリング調査を実施している。令和4年度は9月28日から11月17日にかけてマダイとトラフグについて計8回検査を行った。検査日における各魚種の1鯉弓あたりに確認した白点虫の最高個体数を表1に示す。令和4年度はいずれの検査月日においても白点虫の寄生は確認されなかった。

4) 魚病の診断

表2のとおり

表2 魚病の診断件数

魚種名	病名	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
トラフグ	ビブリオ病				1										1
	緑肝症+トリコジナ症		1												1
	ヘテロボツリウム症					1									1
	粘液胞子虫性やせ病									1					1
マサバ	ビブリオ病				1										1
	緑肝症+ビブリオ病							1							1
	アミルウーディニウム症						1								1
	Scaphanocephalus sp.の寄生													1	1
	擦過傷による斃死						1								1
	高温障害					1									1
	生理障害				1			1							2
ブリ	上湾症+抗酸菌症						1								1
	細菌性溶血性黄疸								1						1
	緑肝症								1						1
	生理障害				1										1
クロマグロ	住血吸虫症					2									2
シマアジ	ビブリオ病												1		1
令和4年度			1	0	4	4	3	2	2	1	0	0	1	1	19
令和3年度			2	1	2	0	6	4	0	0	1	0	1	1	18
令和2年度			3	3	4	2	4	2	3	2	1	0	0	0	24
令和元年度			1	4	3	8	5	6	6	3	3	2	3	1	45

表3 PCR法によるクドア・セプテンブクタータ検査

検査No.	受付月日	検査月日	魚種	サイズ	検査結果	備考
クドA01-1～6	5月16日	5月16～17日	ヒラメ稚魚	6.1～8.2cm	(-)	
検査方法：『ヒラメに寄生したKudoa septempunctataの検査方法について（2012年5月）』水産庁栽培養殖課						
検査検体数：計36尾、6個体を1サンプルとして計6サンプル検査を実施						

付表1 ワクチン使用の指導実績

交付番号	実施月日	所属漁協（支所）	対象魚種	ワクチン名	接種方法	接種尾数	備考（接種時、接種後の状況等）
R4-01	6月21日	波多津	ブリ	ピシバック® 注 レンサα2	注射	8,000	異常なし